



10/3 寺井高校生との共同学習 10/6 寺井地区スポーツフェスティバル 10/13 寺井地区ソフトバレーボール大会 10/18 粟生小学校福祉体験授業



10/18 高齢者施設買い物物助 10/19 小松工業高校80周年式典 10/20 粟生小学校親子絵画表彰式 10/20 仏大寺まつり



10/24 浜小学校福祉体験授業 10/26 女性センターフェスティバル 10/27 子育てネットフリーマーケット 10/28 みたにメディカル防災講演



10/31 川北小福祉体験授業 11/1 辰口中央小学校福祉体験授業 11/3 能美市表彰式 11/8 議会と寺井高校意見交換会



11/9 ジュニアボラ福祉体験 11/10 国造柚子まつり 11/11 寺井としあき会国会訪問 11/16 国際交流フェア



11/16 災害ボランティアセンター訓練 11/17 新保町文化祭 11/22 国府中学校炊出し訓練 11/30 県女性リーダー研修



11/23 男女共同参画フォーラム 11/24 能美小松トランポリン 12/1 赤十字歳末募金 12/7 夜間中学研究大会

能美市議会議員
たなか さくじろう
田中 策次郎

絆 きずな ～能美市政報告～



12月議会 一般質問

市民防災力の向上について

- 防災関係団体と連携した事業の推進を
- 市施設での宿泊避難訓練を実施せよ

市民環境活動の推進を

- 市民公募での環境活動推進の進捗を問う

SDGs ロゴで施策発信を

- SDGs ロゴを使って新年度事業の発信を

11月14日組織編制の本会議が行われました！

「議会運営委員会 副委員長」「総務産業常任委員会 委員長」に就任させて頂きました！

また、これまで2年余り務めさせて頂きました副議長を退任しました。無事に務める事が出来ましたのも、ご支援頂いている市民の皆様と士市の市議のおかげだと感じております。今後も、これまで以上に精進を重ねてまいりますので、ご指導賜ります様よろしくお願い申し上げます。

台風19号被災地の長野市へ 4度 8日間 災害ボランティアに参加させて頂きました



被災間もない10月の時には一面汚泥の状態 何から手を付ければ良いのか分からない屋内 家の前には転がって小さくなった軽トラが放置



主な作業は屋内の壁・床はがし、床下の泥上げ 玄関先や敷地に積もった泥の除去と搬出 リンゴ農家の納屋や農地の泥の搬出も



ボランティアへの応援メッセージに感謝 12月になっても、片付く見通しが立たない 多くの女性が活躍していました

市民防災力の向上について

●防災関係団体と連携した事業の推進を

今年3月議会で、自主防災組織や防災士会など団体や個人と連携しながら市民の防災意識の向上を推進していくことが出来ないか。と今年度の事業展開について質問を行った際、執行部から「セミナーやワークショップなどを年間を通じて開催し、これらの学びの機会を、市だけでなく防災関係団体の方々にも協力をいただき、様々な団体、個人が主体となって体と心で感じる学びを市民の皆さんと一緒に展開したい。」と答弁を受けた。

本年度、数回行われたセミナーでは、防災関係団体と共に行ったものでは無かったと感じられる。広報誌やチラシを配布する周知方法では多くの市民の参加にはつながらない。多くの市民を巻き込んだ幅広い周知が必要と考える。

加えて、各種団体との協力で行われる予定であったワークショップや活動発表などの事業展開は行われていない。

●防災関係団体と共に事業の周知が出来ないか。

また、防災関係団体のワークショップや活動発表が進まない理由と課題は何か

答 吉光 年治 総務部長

今年度開催したセミナーの参加者からは「参加して良かった」との声が多かった。今後はもっと多くの方に参加して頂けるよう防災関係団体と連携して広く周知を進めていく。今後の事業展開では、防災士連絡協議会や赤十字奉仕団など防災関係団体のさらなる協力を頂きながら「我が事・丸ごと防災プロジェクト」の事業を進めていく。



●市施設での宿泊避難訓練を実施せよ

災害時に避難所となる体育館や公共施設での宿泊避難訓練を実施できないか「水道が出る・出ない」「電気が有る・無い」など想定は色々と考えられます。個人や家族がそれぞれ必要と思われる避難用品を持ち寄り、「床で寝るのは痛い」「食事をどうするか」「水はどのくらい必要か」参加していなくても「高齢者の方は大丈夫だろうか」「赤ちゃんが居たら課題がないだろうか」など多くの市民の方が避難所での生活を考え・準備し、苦労や課題を体験し、それを自分の周りの方々にも伝えて頂ければ、災害時に対応できる地域の中での大きな市民力となると思います。当然、一面では施設内の防犯やトラブルが起こる可能性もあり、それは自主防災組織のリーダーや市職員の管理側の学ぶ場にもなるかと思えます。

●市が主体となり自主防災組織のリーダー研修と兼ねた宿泊避難訓練を実施できないか。

答 吉光 年治 総務部長

昨年に引き続き今年度も「防災キャンプ」を開催した。参加者からは「不自由さを体験し、共助の大切さや日頃の生活の有難さを実感した。」等の感想があった。来年度は提案のあった市施設宿泊避難訓練を検討する。



10月には大挙して集まっていた全国各地からの災害ボランティアも12月には少なくなった

地域の多くの方も炊き出しなどの応援に



災害ボランティアを迎える現地スタッフにも多くのボランティアが必要となります

災害廃棄物も大きな自治体の課題に

今年の10月12日に被害をもたらした台風19号の被災地支援で長野市へ、車で3時間と比較的近いことから、10月から12月の間に自家用車を運転し、4回8日間にわたり災害ボランティアとして個人参加してきました。作業は屋内と屋外の、汚泥搬出作業や家財道具の搬出や清掃が主なものです。現場作業に加え、災害ボランティアセンターの補助や支援物資の仕分け作業などにも参加させて頂きました。被害範囲は広く甚大で12月に参加した時でも、まだまだ先の見えない状況でした。

同じ災害が能美市で起こった場合に自分には何が出来るのか、災害が起こる前に何をすべきなのかを、あらためて考える機会ともなりました。災害が起こる前に市民一人ひとりが災害に対して知識を蓄える事や、災害が起こった時には市民全体で協力して災害支援にあたる必要性を実感しました。

市民環境活動の推進を

●市民公募での環境活動推進の進捗を問う

昨年12月議会で、新たな環境活動の手段を模索し実施するために市民からアイデアを公募し、市民が一体となり取り組める環境活動の推進が出来ないか。と質問を投げかけた。

執行部から「市民からのアイデア公募という面では、市内で開催される環境関連イベントにあわせ、市民からの環境に対する活動のアイデアを募集し、コンテストの実施やイベント会場での展示、デモンストレーションなど、イベントに集まるさまざまな主体が一体となった新たな取り組みが構築できないか検討したい。その寄せられたアイデアを広報紙やホームページなどで公開していくことで、市民からのアイデア公募による環境活動の推進につながるのではないかと考えている。」と答弁を受けたが、その後の事業の進展が見受けられない

●市民からのアイデア公募や、市民が一体となり取り組める環境活動の推進についての今後の計画は！

答 木村 直人 市民生活部長

市民からのアイデアや提案は環境活動のさらなる推進につながると思う。市民が提案しやすい機会をつくると共に、第2次能美市環境基本計画策定の際の市民アンケートの意向や市民からのアイデアや提案を団体や企業と協議し市の取り組みとして発信し、市民みんなで展開できるように進めていく。



SDGs ロゴで施策発信を

●SDGs ロゴを使って新年度事業の発信を

●次年度の新事業に加え、継続事業にも17のゴールの関連付けをし、SDGsのロゴを使用して市民に向けて新年度事業の発信が出来ないか。ロゴの使用で市民がSDGsに興味や関心を持ち、理解をするきっかけとなり、加えて市が市民と一体となり取り組んでいるという発信にもなると思う。

答 井出 敏朗 市長

SDGsを聞いたことがある人が2割程度にとどまるなど、数値の面では認知度は高いとは言えない。また、何をしても良いのか分からないと戸惑う人々の実態もある。「広報のみ」の特集記事でSDGsを取り上げ、イベント開催ポスターやチラシや会議等の資料にもSDGsロゴを印刷し、市内一円の周知に努め関心を高めたい。

また、これらの成果を測るものさしとして能美の地域性を活かした指標づくりを北陸先端大学など有識者の協力を得ながら進め2030年のゴールを目指す。SDGsの活用を通し、将来にわたって暮らしやすさを日本一実感できる「まち」の実現に向け市民力を結集し、地域力をさらに高め、地域の経済・社会・環境の好循環を生む事業を展開していく。



ご意見・ご相談等がございましたら下記まで☆

連絡先記載の無いご意見は返信が出来ませんので、ご返答を希望の方は連絡先をお忘れのないように願います。

能美市議会議員 田中 策次郎

〒923-1124 石川県能美市三道山町チ 16-2
TEL 0761-58-5037 FAX 0761-58-5209
Mail kizuna@3926jp.net http://3926jp.net

